

第76回
ビジネス文書実務検定試験 (8.7.5)
速度部門
第1・2・3級 模範解答

第76回 ビジネス文書実務検定試験

(8.7.5)

第1級速度部門問題 模範解答

日本では、古くから木が身近な建材として用いられ、木造建築は	30
私たちにとって馴染み深いものだ。木材は、コンクリートや鉄骨な	60
どに比べ、二酸化炭素の排出が少ない。その環境性能が評価され、	90
大規模な木造建築が増えている。昨年に開催された大阪・関西万博	120
では、全長が約2キロメートルに及ぶ大屋根リングが、世界最大の	150
木造の構造物として話題となった。	167
大屋根リングは、京都にある清水寺の舞台で使われた工法で造ら	197
れた。木材に穴を開けて縦横に組み合わせ、穴の隙間にくさびを打	227
ち込み一体化させる。また、つなぎ目の強度が不足する部分には、	257
金属製のくさびを打ち込んで補強するという現代の技術を使い、大	287
きな構造物を実現させた。この工法によって、水平方向に動く揺れ	317
が分散されるため、建物の倒壊を防ぐことができる。	342
大規模な構造物は、コンクリートや鉄骨によって造られるものが	372
ほとんどだった。最近では、鉄骨並みの強度と木のぬくもりを併せ	402
持つ集成材が、建材として使用されることが増えている。例えば、	432
C F R P（炭素繊維強化プラスチック）は、高い強度だけではなく	462
軽さも兼ね備えている。木材にこれを組み合わせることによって、	492
耐久性と耐火性が大幅に向上した建材となった。	515
現在、すでに東京では、木造と鉄骨のハイブリッド構造の建物が	545
建築されている。また、ある企業は2041年の完成を目指して、	575
木造70階建てのビルを建てるプロジェクトを進めている。これか	605
らは、脱炭素やサステナビリティに加え、木の良さを意識した建物	635
がより増えていくだろう。大規模な木造建築は、古くからの技術を	665
生かしながら現代的にアップデートされ、私たちが住んでいる街の	695
風景を変化させるかもしれない。	710

第76回 ビジネス文書実務検定試験 (8.7.5)

第2級速度部門問題 模範解答

近年、香りを活用した販売活動が注目されている。嗅覚は、私た	30
ちの記憶や感情と密接に結び付いており、無意識でも行動に影響を	60
与えるといわれている。パン屋からの焼き立ての匂いに誘われ、思	90
わず入ってしまうのはその一例だ。	107
あるホテルでは、リピーターになりやすい家族層をターゲットと	137
し、独自のアロマを導入した。館内に漂う香りにより、日常を忘れ	167
させる空間が演出され、顧客はリラックスできる。その結果、全体	197
に占める家族層の割合が20%以上も増加したという。	223
人は心地良い香りを感じると、店舗での滞在時間が延びることが	253
研究により証明されている。そのため、ある企業は、50種類以上	283
もの香料成分を調合し、店舗に合ったアロマを提供している。商品	313
とイメージが合致すれば顧客の購買意欲が高まるため、契約を結ぶ	343
企業も多い。	350
現代は、視覚や聴覚に訴える広告がありふれている。香りを活用	380
した販売活動は、他社との差別化につながり、企業の価値を高める	410
効果も期待されている。今後はブランディングの一つとして、ロゴ	440
やBGMのように一般的になることだろう。	460

第76回 ビジネス文書実務検定試験 (8.7.5)

第3級速度部門問題 模範解答

ほうじ茶は、緑茶の葉を高温で加熱して作られる日本の飲み物で	30
ある。熱を加えることで茶色に変化し、香ばしくなる。苦みや渋み	60
が抑えられ、やさしい口当たりとなるのが特徴だ。	84
和食に限らず、洋食や甘い菓子とも合い、ほかの茶飲料と比べて	114
も食事との相性が良い。カフェインが少量のため、緑茶や紅茶より	144
就寝前の水分補給に適しているという。さらに、身体への刺激が少	174
なく、リラックス効果があり、病院でも飲用されている。	201
近年では、ほうじ茶を使用した菓子やアレンジした飲み物が販売	231
され、手軽に味わえる機会が増えた。それにより、若い人の間でも	261
人気が高まっている。ほうじ茶は、茶飲料の枠をこえて、今後もよ	291
り多くの人たちに親しまれていくだろう。	310